タイトル	かいたひと	出版社	出版年	書ラベル	紹介文	よみやすき
いのりの石 ヒロシマ・平和へのいのり	こやま 峰子/文, 塚本 やすし/絵	フレーベル館	2015	E/イ	広島に落とされた原子爆弾。惨憺な原爆を体験した石は、平和の大切さを伝えるシンボルになった。	★★★
おれはなにわのライオンや	さねとう あきら/文, 長谷川 知子/絵	ぶんけいどう 文芸堂	1995	E/オ	戦争中の動物園に、はらぺこだけ元気なライオンがいました。愉快だけど悲しい物語。	★★★
かわいそうなぞう	つちや ゆきお/文, 土家 由岐雄/作	きん 星社	1970	E/カ	戦争中、上野動物園で3頭のゾウが殺されました。これは本当にあった悲しいお話をもとにした名作絵本です。	★★★
戦争をやめた人たち 1914年のクリスマス休戦	すずき まもる/文・絵	あすなる書房	2022	E/セ	第一次世界大戦がはじまった、12月24日の夜。敵対するドイツ軍とイギリス軍との最前線で、銃声の代わりに「クリスマスキャロル」の歌声が流れた。	★★★
そして、トンキーもしんだ	たなべ まもる/文, かじ あゆた/絵	こくしや 国土社	1982	E/ソ	太平洋戦争のさなか、ゾウもライオンも動物園で生きられない時代があったことを教えてくれる絵本。	★★★
そらいろ男爵	ジル・ボム/文, ティエリー・デデュー/絵, 中島 さおり/訳	しゅふ としや 主婦の友社	2015	E/ノ	鳥が飛ぶ青い空と、読書をこよなく愛した男、そらいろ男爵が、ユニークな方法で国と国の戦いをやめさせたお話。	★★★
だっこの木	みやがわ ひろ/文, 渡辺 洋二/絵	ぶんけいどう 文芸堂	2011	91.3/ダ	大きないちよの木はカズヤとともなかなよでした。けれど、戦争がはげしくなり、カズヤ一家はいなかで疎開することに。のった木におそいかかったのは・・・。	★★★
ちいちゃんのかげおくり	あまん きみこ/文, 上野 紀子/絵	あかね書房	1982	E/チ	なつの夜の空襲で家族とはなれ、ひとりぼっちになってしまった。ひさんな戦争の中に幼い命をとじた女の子のお話。	★★★
8月6日のこと	なかがわ ひろたか/文, 長谷川 義史/絵	ハモニカブック かわでしおほうしんや ス, 河出書房新社	2011	E/ハ	これは1945年にほんとうにあったお話です。子どもたちに「核と平和」を問いかける絵本。	★★★
ひろしまのピカ	まるき とし/文, 丸木 俊/絵	こみねしよてん 小峰書店	1980	E/ヒ	8月6日、ピカッと恐ろしい光が突き抜けた。人類初めての原子爆弾の光でした。文章からだけでなく絵からも伝わってくる絵本。	★★★
へいわってすてきだね	あさと ゆき 文, 長谷川 義史/画	ブロンズ新社	2014	E/ヘ	みんなのころから、平和がうまれるんだね。じぶんでかんがえる平和のかたちの絵本。	★★★
へいわってどんなこと?	はまた けいこ/文, 浜田 桂子/作	どうしんや 童心社	2011	E/ハ	きつとね、へいわってこんなこと。やさしい絵で、やさしい言葉で、平和を伝える絵本。	★★★
ぼくがラーメンたべてるとき	はせがわ おしふみ/文, 長谷川 義史/作・絵	きょういけがき 教育画劇	2007	E/ボ	ぼくがラーメン食べてる時、地球の裏側でなにがおこってる? 世界の子たちに平和への願いをこめた絵本。	★★★
せんそうがおわるまで、あと2分	ジャック・ゴールドSTEIN/文, 長友 恵子/訳	ごうどうしゅっほん 合同出版	2023	E/セ	幼なじみのジュールとジムは、第一次世界大戦がはじまり、軍隊に入ること。戦争のおろかさ、悲しさを描いた絵本。	★★★
広島の木に会いにい	いしだ ゆうこ/文, 石田 優子/著	かいせいしや 偕成社	2015	65.3/ヒ	原爆を生きぬいた被爆樹木と原爆について考えるノンフィクションです。木の声をきくために、木の専門家に会いにい	★★★
窓ぎわのトットちゃん	くろやなぎつこ/文, 黒柳 徹子/作, いわさき ちひろ/絵	こうだんしや 講談社	1981	91.4/マ	「きみは、ほんとうは、いい子なんだよ!」。小林宗作先生は、トットちゃんを見かけると、いつもそう言った。トモエ学園のユニークな教育とそこに学ぶ子どもたちがいきいきと描いた感動の名作。	★★★
命のうた ぼくは路上で生きた十歳の戦争孤児	たけうち さきこ/文, 竹内 早希子/著, 石井 勉/絵	どうしんしや 童心社	2020	21.0/イ	流浪児、野良犬と石を投げられ、路上で生きていた子どもたちがいた。彼らの悲しみは今も続いています。	★★★
おとうとのねじまきパン ずっとむかし、満州という国であったこと	たかはし たかお/文, 高橋 うらら/著	ごうどうしゅっほん 合同出版	2024	21.0/オ	戦争が終わった時、中国大陸の「満州国」には沢山の日本人が取り残された。日本を目指し、懸命に生きる少女の本当にあったお話。	★★★
ガラスの梨 ちいちゃんの戦争	こしみずりえこ/文, 越水 利江子/作, 牧野 千穂/絵	ポプラ社	2018	91.3/ガ	昭和16年、大阪。父母と姉、兄、弟、そして子犬にかこまれた小学3年生の笑生子の幸せな日常は、暗い戦争の影に侵されはじめた。	★★★
被爆者 60年目のことば	あいだ のりゆき/文, 会田 法行/写真・文	ポプラ社	2005	31.9/シ	ヒロシマ・ナガサキで被爆してから60年目。戦争、平和、生きることの意味を静かに語ります。	★★★